

平成29（2017）年産水稲の作柄について

<目次>

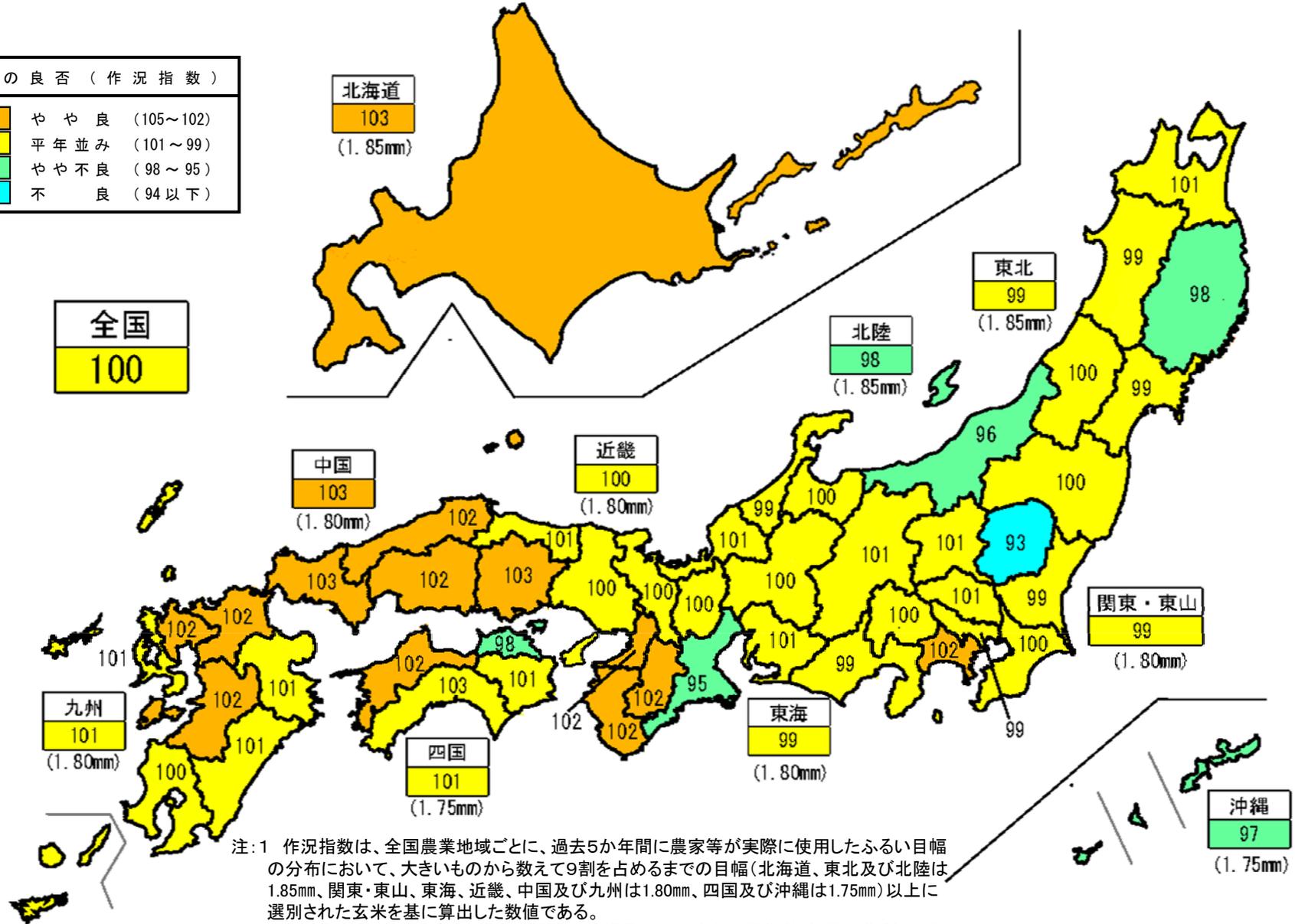
平成29年産水稲の作況指数	1
平成29年産全国農業地域別作柄の特徴	2
水稲の作柄に関する委員会の意見に対する作柄の概要	3

平成29年産水稻の作況指数

全国農業地域・都道府県別作況指数

【農家等が使用しているふるい目幅ベース】

作柄の良否（作況指数）	
■	やや良（105～102）
■	平年並み（101～99）
■	やや不良（98～95）
■	不良（94以下）



注:1 作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(北海道、東北及び北陸は1.85mm、関東・東山、東海、近畿、中国及び九州は1.80mm、四国及び沖縄は1.75mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培(第一期稲)と普通栽培(第二期稲)を合算したものである。

平成29年産全国農業地域別作柄の特徴

【北海道：作況指数 103】

○6月が低温・日照不足で経過したものの、7月には天候が回復したことから全もみ数は「平年並み」となった。

○登熟は、8月上旬の多照により開花・受精が良好となり稔実が平年を上回ったこと、粒の肥大及び充実は登熟期間を通じて日照時間が平年並み以上に確保されたこと等から「やや良」となった。

【東北：99、北陸：98、関東・東山：99、東海：99】

○田植期以降7月にかけておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となった。

○登熟は、東北太平洋側及び関東を中心に7月下旬から8月にかけての日照不足やその後の低温等の影響により平年を下回る地域があった。

【近畿：100、中国：103、四国：101、九州：101】

○生育期間を通じておおむね天候に恵まれたことにより、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となった。

○登熟は、九州の一部では9月中旬以降の日照不足等による影響が見られたものの、その他の地域ではおおむね順調であった。

【沖縄：97】

○八重山地域において、第一期稲では低温・日照不足による影響、第二期稲ではいもち病等の影響が見られた。

水稻の作柄に関する委員会の意見に対する作柄の概要

「水稻の作柄に関する委員会（平成29年度第2回）の意見」（平成29年9月5日）の抜粋

2 次回の調査に当たって留意すべき事項

- (1) 早場地帯においては、出穂後の低温・寡照が登熟や品質に及ぼす影響に留意する必要がある。
- (2) 遅場地帯においては、7月以降、気温は平年を上回って推移しており、一部で寡照傾向となっていることから、もみ数及び登熟等への影響を見極める必要がある。
- (3) 7月下旬の集中豪雨や8月上旬の台風第5号等の被害が見られた地域では、その影響を見極める必要があるとともに、今後の台風や集中豪雨等による作柄への影響にも留意する必要がある。
- (4) いもち病、紋枯病、斑点米カメムシ類等の病虫害の発生が多いと予想される地域においては、その発生状況に留意する必要がある。

1 早場地帯での出穂後の低温・寡照による登熟や品質への影響

	1㎡当たり全もみ数		千もみ当たり収量		作況指数	1等米比率(%)		日照時間(平年対比:%)及び平均気温(平年差:℃)										
	(百粒)	平年比	(g)	平年比		29年産 1月末現在	28年産 確定	6月	7月			8月			9月			
								月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
北海道 (札幌)	340	99	17.1	104	103	90.7	89.4	日照時間	88	123	127	116	143	76	104	165	69	113
								平均気温	▲0.7	3.3	3.7	0.3	▲0.5	▲1.4	▲0.1	▲0.6	▲0.7	0.2
岩手 (盛岡)	291	102	18.7	97	98	93.0	98.0	日照時間	117	193	181	74	90	27	80	173	110	134
								平均気温	▲0.4	3.8	4.0	0.0	▲1.0	▲2.1	▲0.5	▲1.3	0.2	0.2

	1㎡当たり全もみ数		千もみ当たり収量		作況指数	1等米比率(%)		日照時間(平年対比:%)及び平均気温(平年差:℃)										
	(百粒)	平年比	(g)	平年比		29年産 1月末現在	28年産 確定	6月	7月			8月			9月			
								月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
宮城 (仙台)	304	105	18.0	96	99	83.9	90.6	日照時間	134	227	171	87	21	5	91	164	135	157
								平均気温	0.1	4.3	4.1	0.7	▲ 1.6	▲ 2.8	0.5	▲ 1.3	1.2	1.2
秋田 (秋田)	321	102	18.3	98	99	90.2	92.5	日照時間	105	127	168	95	131	80	84	140	100	121
								平均気温	▲ 1.6	1.5	3.3	0.5	0.8	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 1.5	0.6	0.2
栃木 (宇都宮)	299	101	17.4	94	93	95.1	94.6	日照時間	137	206	137	41	23	21	70	116	131	151
								平均気温	0.3	3.2	3.0	0.6	▲ 0.4	▲ 2.1	0.8	▲ 1.8	0.7	1.1
新潟 (新潟)	279	95	19.3	103	96	83.9	84.8	日照時間	106	154	181	69	124	46	73	117	98	136
								平均気温	▲ 1.7	1.2	3.0	0.0	0.4	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 2.2	▲ 0.3	0.2
三重 (津)	276	97	17.7	98	95	36.2	63.2	日照時間	153	108	127	71	65	79	122	98	72	123
								平均気温	▲ 0.3	2.5	1.8	0.9	0.5	▲ 0.1	1.7	▲ 1.2	▲ 0.3	0.2
鳥取 (鳥取)	278	104	19.1	98	101	57.7	49.9	日照時間	141	98	190	86	95	66	122	102	96	164
								平均気温	▲ 0.6	2.3	2.7	1.2	1.2	▲ 1.1	0.8	▲ 1.7	▲ 0.4	0.3

注：1 県名の下段の()書きはアメダス地点名である。

2 作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅ベースである。

3 1等米比率は、政策統括官付穀物課「米の農産物検査結果」における水稻うるち米の結果である。

- ① 早場地帯の地域においては、田植期以降7月にかけておおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となった。
- ② 出穂期以降は、東北太平洋側を及び関東を中心に7月下旬から8月にかけて日照不足となり、その後は低温等となった。
- ③ このような気象及びもみ数の状況において、千もみ当たり収量をみると、一部を除き平年を下回る県が多くなった。

2 遅場地帯での7月以降の高温・寡照によるもみ数や登熟への影響

	1㎡当たり 全もみ数		千もみ当たり 収量		作況 指数	1等米比率(%)		日照時間(平年対比:%)及び平均気温(平年差:℃)								
	(百粒)	平年比	(g)	平年比		29年産 1月末現在	28年産 確定	6月	7月	8月			9月			
								月間	月間	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
埼玉 (熊谷)	289	102	17.4	99	101	89.0	88.0	日照時間	149	128	42	26	79	136	129	146
								平均気温	0.7	2.5	▲0.2	▲2.3	1.1	▲2.1	1.0	1.4
愛知 (名古屋)	285	101	18.3	100	101	53.9	58.4	日照時間	149	105	82	60	105	122	81	140
								平均気温	▲0.3	1.7	0.7	▲0.8	1.0	▲0.9	▲0.7	0.3
兵庫 (神戸)	267	99	19.3	102	100	65.2	62.7	日照時間	130	98	93	89	104	89	86	130
								平均気温	▲0.7	1.4	1.0	0.2	1.3	▲1.2	▲0.7	▲0.1
岡山 (岡山)	288	101	19.3	102	103	80.2	80.4	日照時間	128	90	105	92	112	91	73	120
								平均気温	▲1.1	0.9	0.5	▲0.4	0.8	▲2.3	▲1.0	▲0.9
香川 (高松)	275	95	18.0	103	98	18.6	11.0	日照時間	127	99	105	102	113	87	78	113
								平均気温	▲0.2	1.7	1.6	0.9	1.6	▲1.2	0.0	▲0.1
佐賀 (佐賀)	319	106	17.0	96	102	65.5	58.7	日照時間	122	98	105	108	136	88	33	89
								平均気温	0.2	2.0	2.1	0.4	1.4	▲0.7	▲0.6	0.2
長崎 (長崎)	295	104	17.1	98	101	39.2	31.6	日照時間	114	113	92	118	122	102	53	66
								平均気温	▲0.2	1.5	2.3	▲0.1	0.5	▲1.0	▲0.8	▲0.7

注：1 県名の下段の()書きはアメダス地点名である。

2 作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅ベースである。

3 1等米比率は、政策統括官付穀物課「米の農産物検査結果」における水稲うるち米の結果である。

- ① 遅場地帯の地域においては、田植え以降おおむね天候に恵まれたため、全もみ数は一部を除き「平年並み」ないし「多い」となった。
- ② 登熟は、九州において生育ステージの遅い地帯・品種を中心に9月中旬以降の日照不足等の影響が見られたものの、その他の地域ではおおむね順調であった。

3 台風等による作柄への影響

災害名	主 なる 都道府県	被害面積	被害量
台風第3号及び梅雨前線による大雨	秋田	3,010 ha	2,940 t
	新潟	390	237
	福岡	1,000	1,810
	大分	123	303
台風第18号	新潟	12,000	550
	愛媛	310	143
	大分	1,680	350
台風第21号及び第22号	兵庫	820	183

データ：「被害応急調査（平成29年7月～9月）」及び「被害応急調査（平成29年10月～12月）」

注：主な都道府県は被害量が100 t 以上を記載した。

① 6月30日から7月下旬にかけての梅雨前線による大雨や7月上旬の台風第3号の影響により、秋田県や福岡県等において浸冠水、土砂流入等の被害が発生、② 9月中旬の台風第18号の影響により、新潟県や大分県等において倒伏、土砂流入等の被害が発生、③ 10月下旬の台風第21号及び第22号の影響により、兵庫県等において倒伏等の被害が発生したものの、いずれも被害程度は限定的であった。

4 病虫害の発生による作柄への影響

○病虫害発生予報第6号（平成29年8月23日発表）抜粋

- ・ イネいもち病：東北、中国、南九州等の一部の地域でやや多くなると予想されています。
- ・ 斑点米カメムシ類：広い範囲において多くなっており、本年はこれまで18府県から注意報が発表されています。

○病虫害発生予報第7号（平成29年9月13日発表）抜粋

- ・ トビイロウンカ：九州の一部の地域で多くなると予想されており、福岡県、佐賀県、長崎県及び鹿児島県では本虫の発生量が多いとして注意報が発表されています。

病虫害の被害量

都道府県	29年産 作況指数	いもち病（t）		
		29年産	28年産	27年産
青森	101	112	173	330
岩手	98	2,110	1,450	2,120
宮城	99	2,130	1,670	1,460
秋田	99	4,720	1,450	2,700
山形	100	2,050	2,010	2,600
福島	100	3,910	3,530	5,280
鳥取	101	561	571	508
島根	102	690	702	1,050
岡山	103	1,480	1,960	2,830
広島	102	1,030	1,260	3,110
山口	103	1,130	2,040	2,320
宮崎	101	2,530	3,500	4,630
鹿児島	100	3,030	3,270	5,930

都道府県	29年産 作況指数	ウンカ（t）		
		29年産	28年産	27年産
福岡	102	495	182	174
佐賀	102	2,320	1,920	26
長崎	101	818	653	153
鹿児島	100	3,100	3,150	586

都道府県	29年産 作況指数	カメムシ（t）			都道府県	29年産 作況指数	カメムシ（t）		
		29年産	28年産	27年産			29年産	28年産	27年産
岩手	98	34	63	101	石川	99	42	90	90
宮城	99	312	459	392	長野	101	319	464	414
秋田	99	231	364	454	岐阜	100	158	96	85
山形	100	395	460	330	愛知	101	235	111	205
福島	100	321	357	284	京都	100	124	191	200
茨城	99	1,240	1,050	875	岡山	103	518	443	418
埼玉	101	75	60	100	山口	103	66	62	125
新潟	96	194	131	160	愛媛	102	167	136	218
富山	100	25	21	249	宮崎	101	839	339	283

データ：「作物統計」

注：作況指数については、農家等が使用しているふるい目幅ベースである。

- ① いもち病及びカメムシについては、一部地域で被害の発生が見られたものの全般的には大きな被害には至らなかった。
- ② ウンカについては、九州の一部地域で作柄への影響が見られた。